

「まなびの広場」は那須教育事務所ホームページに掲載されます。  
http://www.pref.tochigi.lg.jp/m56/system/desaki/desaki/nasu-kyouiku01.html

毎月第3日曜日は「家庭の日」

## 新大田原図書館開館！

9月から休館していた大田原図書館がトコトコ大田原4階に12月15日(日)からオープンします。旧図書館よりも広く、蔵書収容能力は21万冊になります。

ワンフロアの明るい館内は、低書架にすることで圧迫感をなくし、落ち着いた雰囲気になっています。児童書コーナーには親子で読書が楽しめるようなテーブルといすを配置、新聞・雑誌コーナーには閲覧台を設けるなど、読書を満喫できるようになっています。

また、新設されたパソコンコーナーでは、インターネットの利用はもちろん、新聞のデータベース検索等もスムーズにできるようになっています。また、電子図書の貸出も新たに始まりました。席数に限りはありますが、自分のパソコンを持ち込んでの利用も可能となっています。調べものがある時には、レファレンスカウンターに専門のスタッフがいますので、気軽に相談できます。

魅力たっぷりの新図書館にぜひお越しください！



## ～駄菓子屋の思い出を絵本に～ 昭るりさん作『五歳で行こうよ 駄菓子屋ちゃ色』

那須町の伊王野地区で、駄菓子屋を営みながら多方面で創作活動やアーティスト活動をされている昭るりさんこと菊地昭一さん(58)が、この度絵本を出版されました。

この絵本は、昭るりさん自身の駄菓子屋での体験がベースとなっています。大人になった自分とその子どもたちが、遠い昔に優しくしてくれた“駄菓子屋のおばあちゃん”に「ありがとう」を言いに行くというストーリーです。

昭るりさんは、これまで、嶋均三さんの著作の挿絵を描くことはありましたが、絵本を出版するのは初めてのことでした。この絵本の中に描かれる世界観は、子どもたちへの温かい眼差しが広がっております。絵本は、県内の書店でお求め可能です。

また、菊地昭一さんとしても那須町子どもフェスティバルの実行委員長や地元大畑灯籠祭でも長年子どもたちの指導に当たるなど、ふれあい学習の推進にも積極的に取り組んでおられます。

那須町では、これからも菊地さんのような方々とともに、子どもたちが豊かな体験ができる取組を進めていきたいと考えています。



## 第8回那須塩原ハーフマラソン

11月3日(日・祝)の秋晴れの下、くろいそ運動場を主会場に第8回那須塩原ハーフマラソンが開催されました。

ゲストランナーにトラック競技でオリンピック3大会連続出場し、「トラックの女王」と呼ばれた弘山晴美さんを迎え、ハーフ・5km・3km・2km・1kmの5コースで約2,800人が気持ちのよい汗を流しました。

選手たちは走り終えた後に、例年好評の無料なめこ汁や地元産牛乳で疲れた体を癒していました。また、ハーフの部優勝者の男女各1名には、「たねがしまロケットマラソン大会」への招待状が送られました。



## 「県民カレッジ」防災学習推進事業

去る10月3日(木)に那須塩原市黒磯文化会館小ホールにて、「地域防災力を高めるために」～防災力育成と地域の特性～をテーマにした「とちぎ県民カレッジ」が行われました。

講演では、福島大学特任准教授の天野和彦氏が、「あの時避難所は…おだがいさまが支えた169日間」と題してお話しされました。

天野氏は、東日本大震災において、福島県内最大規模の避難所となった「ピックパレットふくしま」の福島県庁運営支援チームの責任者として、避難所運営に携わりました。ふるさとを愛する気持ちや互いに支え合う気持ちから、人々が行動し、そこから“絆”が生まれ、崩壊しかかっていた避難所が復活していく過程を詳しくお話しいただきました。

参加者からは、「福島県民の復興への強い絆を感じた。」「地域の結びつき、人と人とのつながりが大切だということを改めて感じた。」等の意見や感想が寄せられました。

この防災学習推進事業は、県内7地区で開催されています。各地区での内容は、栃木県総合教育センターのホームページ「とちぎレインボUNET」で、御覧いただけます。

